

【 1 目 的 】

こどもの成長に必要な屋内・屋外の遊び場整備を図り、若者・子育て世代に選ばれるまちづくりを進める。

【 2 遊び場整備において留意すべき内容】

次のこどもの遊びの意義、遊びの環境のデザインに配慮して整備を行う。

《こどもの遊びの意義》とは

遊びは、すべての子どもの成長にとって必要不可欠なものである。

(国土交通省「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」より引用)

《こどもの遊び環境のデザイン》とは

1. 遊びの価値を尊重し、主体的に遊べる環境を整備する
2. 安全性を考慮し、リスクを適切に管理し、ハザードを確実に除去する
3. 屋内と屋外のそれぞれのメリットを組み合わせ、総合的にデザインする

※ 遊びの意義、環境デザインについては、仲 綾子教授のアドバイスによるものである。

【3 整備の基本的な考え方】

施設の整備にあたっては、以下3点を考慮し、屋内、屋外の遊び場を整備する。

1. 屋内の「遊び場」を求める市民ニーズに早期に応える
2. 公園などの外遊びの環境と遊具の改善を求める市民ニーズに応える
3. 財政に配慮した持続可能な「遊び場」を構築する（既存施設の有効活用等）

【4 整備の基本的な方向性】

形態		方向性	対象施設
屋内	大・中規模	既存民間施設の活用も含めた遊びの環境の整備	キッズドームソライ、中央児童館 等
	小規模	機能見直し検討や遊び機能の拡充	地域児童館（南部、陽光、西部、大山、藤島）地域子育て支援拠点（子育て支援センター等）
		未利用施設を活用し身近な遊び場を展開	こがたランドのような遊び場
屋外	大・中規模	身体運動やレクリエーション機能の充足	プレイパークの整備 西部公園・小真木原公園 等
	小規模	優先順位を決め、身近なあそび場として整備	街区公園・農村公園 等

【5 ニーズが高い大型屋内の遊び場の対応について】

現 況	- 子育て世代から、様々な場面で大型の屋内の遊び場整備を求める要望がある。 - 現状把握と今後の対応検討のため、親子モニター事業による調査を実施。 (令和6年7～9月)
対 応	調査結果を受け、子育て支援として既存民間施設のキッズドームソライの活用(利用料軽減)を検討。

【6 既存公園の老朽化した遊具の更新、修繕、撤去について】

現 況	子育て世代や維持管理をお願いしている町内会等から遊具の更新や充実、危険遊具の撤去と再整備の計画を示してほしいとの要望がある。
対 応	引き続き、劣化が進行した遊具を対象に公園の規模等に応じて整備を進めると共に、更新の必要な公園について情報提供に努める。 大・中規模公園：大型遊具等を重点的に配置し、機能の充実を図る。 小規模公園：機能維持や長寿命化を基本とし、危険遊具の撤去及び年2～3箇所程度の更新を順次進める。